

学校教育目標	「夢をえがこう 自分をえがこう 嶮山あったかハーモニー」 自ら学び、しっかり考える子を育てます。【知】 思いやりのある子を育てます。【徳】 たくましい子を育てます。【体】 まちとともに生きる子を育てます。【公】 夢をもち、チャレンジする子を育てます。【開】					
	学校概要	創立 42 周年	学校長 山口 昭代	副校長 鎌田 忠裕	2 学期制	一般学級: 13 個別支援学級: 3
児童生徒数: 375 人		主な関係校: すずき野中				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
意欲をもって学び続ける力 健康な心と体をつくろうとする力 よりよい自分を築こうとする力 多様性を認め協働する力 かかわりを求め喜びを共有する力	すずき野中 あざみ野中 荏子田小 黒須田小 あざみ野第一小 あざみ野第二小	○自分らしく、共に生き、社会に貢献する子  小中学校間で学習指導や生活指導の円滑な接続を重視するとともに、児童・生徒間の交流や小中教職員の交流を積極的に図ることによって、子どもたちに必要な資質・能力を育てる。 特に、すずき野中、嶮山小は二校合同の学校運営協議会等を通じて二校での連携を深め、「9年間で育てる子ども像」に沿った育成を進める。

中期取組目標	<p>○創立40周年記念事業に関わる活動を通して、児童が「夢をえがき」「自分をえがく」ことよさを実感できるようにし、この「まち」で育つ喜びを味わえる学校を目指す。</p> <p>○「歯と口の健康づくり」「食育」を推進し、自分の健康を自分自身で作り出し、保持しようとする力をもった子を育てる。また、自他の存在の尊さを知り、確かな「生きる力」を身に付けていく。</p> <p>○すずき野・嶮山ネット、7校小中一貫教育推進ブロック、地域との連携を通し、保護者、地域、関係の方々から信頼され、「まち」に愛着をもつ子を育てる。</p> <p>○教育課程を見直すことで、カリキュラムマネジメントの意識を高め、授業力・指導力の向上を目指す。</p>
--------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①3密の状況を避け、有効な教育活動を全学年で追求し、共有・実践を進める。また、子どもはもちろん、保護者からの声もしっかりと受けとめ、共感的な支援を継続する。②「自ら考え判断し、自分の思いを表現する子」の育成と評価を目指すという視点を全教科学習の中心に据える。③GIGAスクール構想の実現に向けて、目的や方法を全教職員で共有する。
豊かな心	①これまでとは真逆の「人との接触を極力減らす」という生活スタイルの中で心の結びつきを実感できるような働きかけを意図的・計画的に行う。道徳・特活の授業はもちろん、日常のあらゆる場面を通じて人権教育を進め、距離が開いていても相手を思いやることのできる子どもを育てる。
健やかな体	①「全国健康づくり推進校表彰」の受賞を励みに、これまで積み重ねた保健教育、安全教育、人権教育、食育等を総合的な健康教育として再構築し、ウイルス感染拡大防止の観点も加えた実践的な取組みとして推進する。②地域に積極的に情報発信し、地域の「健やか」をリードする。
教育課程	①旧すずき野小と旧嶮山小それぞれの児童の特性をデータ(学習状況調査・生活意識調査、新体力テスト等)に基づいて分析し、嶮山小を母校として育つ子どもたち共通のよさや課題を明確にする。②従来の教育活動が行えない状況下においても、教育課程を貫く価値の具体をしっかりとイメージし生きる力を育てていく。
児童生徒指導	①児童の育ってきた背景(学校、家庭や地域等)を十分に理解し、早計な判断での指導を行わないように注意する。②「嶮山スタンダード」を自分たちの生活をよりよくするための拠り所と考え、一貫性のある指導を行う。また、S.C、SSWや家庭との連携を充実させて望ましい生活習慣の確立を目指す。
地域連携	①参加可能な地域行事が制限されるが、日常的に出会う学援隊の方々や教育ボランティア、来校者と快活な挨拶を交わすことで「社会に貢献する子」の素地を養う。②「フレンドくんの会」の活動やパトロール活動等を通して、地域に顔を知られる教職員を増やし、名実ともに「社会に開かれた学校」を目指す。
学校運営協議会	①すずき野中と合同で行う「学校運営協議会」では、学校を取り巻く今日的課題を明確にしたり、学校教育活動への意見を伺ったりする中で、子どもの育ちを共に喜べる地域風土を醸成する。②まちづくりの観点ももち、すずき野小跡地の有効活用については、本校にも影響があることなのでしっかりと共有していく。
創立40周年記念事業	①40周年を終え、新生嶮山として二年目を迎えた。すずき野小の仲間を迎えることができた喜びを、子どもたち自身はもちろん、保護者や地域、関係する皆で共有していく。②本校が紡いできた学校文化に愛着をもてるように、既存の活動をより実践的で主体的な取組みにしていく。
いじめへの対応	①「いじめの未然防止」を徹底し、児童支援専任への初期段階での報告や学年ブロックでの共有を通して、組織として子どもの安心と安全を守っていく。②新型コロナウイルス感染への差別を許さず、互いのもつ文化の違いが排除につながらないように十分に配慮し、教職員自身が多様性を理解して体現できる資質をもてるようにする。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①学校で健全に職務を進めるために、週案や校務システム、情報共有ツールを生かして効率的な勤務計画を実現する。②教職員がやりがいと愛着と誇りをもって職務に取組み、学校を愛する気持ちをもてるよう、一人一人が輝ける機会を意図的につくる。また、学校運営に参画できる喜びややりがいを実感できるようにする。③引き続き、学校行事や校務の洗い出しや見直しを積極的に進めていく。